

令和2年度宮沢賢治記念館運営審議会会議録

1 開催日時

令和2年8月4日（火） 午後2時00分～午後3時13分

2 開催場所

花巻市高松第1地割1-1 宮沢賢治イーハトーブ館 講義室

3 出席者

(1) 委員6名

瀬川卓哉委員（宮沢賢治・花巻市民の会会員）、高橋俊吉委員（早池峰賢治の会事務局）、小原節子委員（宮沢賢治・東和の会会長）、堀合範子委員（花巻ユネスコ協会事務局長）中島健次委員（矢沢地域振興会会長）、多田章委員（矢沢地域振興会理事）

(2) 事務局（宮沢賢治記念館）4名

市川生涯学習部長、清水館長、晴山副館長、宮澤主査

4 議題

(1) 会長の互選及び職務代理者の指名

(2) 令和元年度事業報告について

(3) 令和2年度事業計画について

5 議事録

清水館長：ただ今から、宮沢賢治記念館運営審議会を開会いたします。開会に当たりまして、市川生涯学習部長よりご挨拶を申し上げます。

市川生涯学習部長：皆さん、こんにちは。今日はお忙しいところ、そして暑い中、お集まりいただきまして、大変ありがとうございます。皆様方には、2年という任期でございますが、賢治記念館の運営に関しまして、ご意見をいただくようお願いしたいと思います。新型コロナウイルスの影響で、賢治記念館を3月2日から5月いっぱい休館し、6月1日にオープンしやっているという状況でございます。だんだんにお客様が戻りつつありまして、土日に100人を超すような状況から、先日の4連休は5百人ぐらい来るような状況になっておりました。ただ、県内からも感染者が確認されるような状況になって、8月1日、2日の土曜日、日曜日は百人台にまた少し落ち着いたかなという感じもある状況です。このような中、賢治記念館ではサーモカメラを入口に設置して、イーハトーブ館は一人ずつ見るような感じですが、賢治記念館ではたくさんの人にも対応できるようにやっておりますし、十分手指の消毒、また、人が触れるようなところも消毒したり、職員が頑張っておりますので、お客様も来ていただけるように努力しているというような状況でございます。このような状況ですので、予定されていた企画展等につきましては、若干ずらしたり、賢治記念館に限らずやっておりますが、県内から感染者が確認されたということで、これからどうしていくかというのを3時から会議がありまして、県内の様子を見ながら、市の施設をどうしていくかというのを毎日検討しているというような状況であります。そのような中で、できるだけお客様に迷惑がかからないように市の職員も頑張っているというような状況でありますので、皆さんからご意見を賜りまして、これからどうなっていくかということもありますが、いろいろやっていきたいと思

いますので、よろしくお願ひいたします。終わります。

清水館長：本運営審議会は、会長が議長を務めることとされていますが、改選後、最初の運営審議会でございますので、会長が決まるまでの間、市川生涯学習部長が議長を務めさせていただきますことをご了承願ひます。それでは、市川部長、お願ひします。

市川生涯学習部長：それでは、しばらくの間、議長を務めます。宮沢賢治記念館管理運営規則第8条第1項によりまして、委員の互選により会長を定めるというふうになっておりまして、どのような方法で会長を選出したらよろしいでしょうか。

（「事務局案」との声あり）

市川生涯学習部長：はい、ただ今、事務局案というお話がありましたが、事務局で案があったらお願ひします。

清水館長：はい、それでは、会長に中島健次委員を提案いたします。

市川生涯学習部長：事務局案といたしましては、中島健次委員に引き続き会長をお願ひしたいということですが、皆様いかがでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

市川生涯学習部長：はい、ありがとうございます。それでは、中島委員を会長とすることに決定いたしました。

中島会長：このたび、記念館運営審議会の会長に選任されました中島と申します。よろしくお願ひ申し上げたいと思います。先ほど、市川部長からもお話があったようにコロナが大変なわけですが、この審議会自体も初めて場所を移しまして、たまにはいいだろうと思ひますが、毎回こういう状況では非常にまずいだろうなというふうに思ひます。花巻市はもとより、県を代表する施設として一日も早く千客万来を願ひするものであります。委員の皆様にはどうぞご提言、ご指導、今後ともよろしくお願ひ申し上げたいと思います。それでは、職務代理者の指名でございますが、会長の指名する委員という規定がございますので、私の方から指名したいというふうに思ひます。本日、残念ながら欠席ですが、石鳥谷賢治の会の玉山さんにお願ひしたいと存じますので、よろしくお願ひ申し上げたいと思います。それでは、続きまして議事に入りたいと思ひます。(1)令和元年度事業報告について、事務局からご説明をお願ひしたいと思ひます。

晴山副館長：それでは、令和元年度事業報告について、ご説明いたします。資料をめぐっていただき、1ページをご覧いただきたいと思ひます。1入館状況と対応について、(1)入館者の状況。令和元年度は、本物に出会える空間として3つの特別展を開催し、年間の入館者数は12万1千7百56人で行いました。下に表がありまして、一番下が令和元年度ということで、入館者数12万1千7百56人、累計で7百56万2千1百65人、一日平均で3百71人という状況でございます。(2)対応の状況、①開館日等の状況。入館者の利便に供するため、条例で休館日として規定している月曜日を開館いたしました。同じく、胡四王神社蘇民祭開催日に合わせて1月2日から開館し、観光客等の来館に対応しました。館内エアコン設備修繕のため、10月29日から31日まで臨時休館日としましたし、新型コロナの関係で、令和2年3月2日から31日まで休館してございます。②繁忙期の対応。4月、5月の大型連休及び8月の夏休み、お盆を中心とした繁忙期には、童話村駐車場を臨時駐車場として、双方の駐車場を結ぶ交通手段として、シャトルバスを計25日間、のべ33台運行してございます。また、シャトルバス運行期間を含め、4月から11月までの間に交通整理等に計53日間、のべ181人の警備員を配置し、来館者の安全誘導に努めました。③解説案内、レファレンスの対応。入館者より要請があった場合は、団

体入館者を中心に花巻観光協会の観光ボランティアガイドが館内解説や案内等に対応し、学習、調査、取材に対しては学芸員が対応してございます。2 主要事業、賢治のまちづくり推進事業について、(1) 特別展の開催。①寓話猫の事務所、期間が平成31年4月27日から令和元年7月15日まで、特別展示室で開催してございます。直筆稿展示期間中、20日間ございましたけれども、入館者が1万7千3百29人ということでした。②童話〔祭の晩〕、期間が令和元年7月20日から10月27日まで、直筆稿展示期間中は10日間でございます。その入館者が6千9百64人ということでした。③童話貝の火でございます。期間が令和元年11月2日から令和2年3月1日まで、直筆稿の展示期間中、18日間でございますが、入館者は6千7百23人ということでした。(2)「賢治の世界」セミナー、ワークショップ等の開催、記録集第9集刊行、実施状況につきましては別紙2ということで、資料の後ろの方を見ていただきたいと思います。別紙2でございます。令和元年度「賢治の世界」セミナー実施状況ということで、学校名、実施日、時間、対象人数、内容等でございますので、後でお目通しをお願いいたします。また、同じ表の下の方にワークショップとギャラリートークの実施状況が載っておりますので、後でお目通しをお願いいたします。資料の2ページに戻ります。①「賢治の世界」セミナー、出前講座、宮沢賢治の作品世界や生き方を学ぶセミナーとして6月から12月にかけて、市内小中学校及び花巻農業高校を対象に講座を開催いたしました。実施校は、19校で20回でございます。先ほどの別紙2に載っております。②「賢治の世界」ワークショップ、賢治の世界を体験するゆかりの地探訪等のワークショップを開催しました。実施回数は、3回でございます。資料の3ページに移ります。③ギャラリートークの開催、館内展示解説や特別展について、学芸員によるギャラリートークを1月と2月に開催してございます。実施回数は、2回でございます。3 各種行事等の開催。開館記念行事、期日が令和元年9月21日、土曜日でございます。内容としましては、野口田鶴子さんの朗読、祭の晩ほか。胡四王神楽さんによる山の神舞を行ってございます。4 記念館年報、記念館通信等の発行。年報、平成30年度年報を9月に発行してございます。150部です。通信は年2回発行、9月と3月に発行ということで、各300部発行してございます。5 環境等の整備について、(1) 主な施設整備。玄関マット交換ということで、正面入り口前の玄関マットを交換してございます。玄関上軒樋、堅樋交換ということですが、簡単に言いますと、雨樋を交換したということでございます。収蔵庫の軒裏の塗装修繕ということで、収蔵庫の軒裏を塗装してございます。(2) 周辺環境の整備。市道宮沢賢治記念館線及び南斜花壇の草刈り、植栽の管理をしてございます。賢治ゆかりのバラの花壇の整備を行っております。南斜花壇周辺樹木の伐採は、農村林務課の方で行っております。6月から9月に正面アプローチへ県立花巻農業高等学校PTA様より提供していただきましたプランターの花を、10月には菊花愛好家の方々より提供していただいた菊の鉢を通路に設置しております。また、企業の森活動として、日東工業花巻営業所に草刈り作業を2回行っていただいております。(3) 宮沢賢治記念館所蔵資料直筆稿の修繕でございます。童話祭の晩が11枚、童話貝の火が41枚、自筆教材絵図が17枚で、計69枚修繕してございます。事業の報告については、以上でございます。

中島会長：ただ今、事業報告を説明いただきました。さっき言ったように3月から休みなのですが、ほぼ通年どおりの入館者であったのではないかなというふうには思います。この元年度の事業報告について、皆さんの方からございませんか。前もってお話ししますが、その他のところで、皆さんのそれぞれの所属とか、それぞれ皆

さんの賢治記念館あるいは賢治さんに関する思いといったようなものを一人ひとり発言していただきたいと思います。とりあえずこの事業報告について、ご質問、ご意見がございましたらお願いします。

瀬川委員：月曜日、開館したということなんですけれども、それによって増えたなどというのはありますか。

晴山副館長：温泉とかに泊まる方なんかは、日曜日から月曜日にかけて移動する方がたくさんいらっしゃると思いますので、月曜日に開館することは、来館者の増加には効果があると考えております。

堀合委員：1番最初の特別展ですが、直筆稿が展示されたことで2倍以上の入館者、1万7千人でしたか、その理由は何でしょうか。

宮澤主査：直筆稿の展示期間、毎年、かなりお客さんがいらっしゃるんですけども、やはりゴールデンウィークとか連休の期間に直筆稿の展示ができるように設定しておりますので、その期間に来て本物が見られるということで、皆さん喜んでいただいております。直筆稿の展示を始めまして昨年で5年目になるんですけども、皆さんに周知されてきた感がありまして、長期の休み期間に来ると見られるんじゃないかというようなことで、喜んでいただけるような状況になっているかと思っております。

堀合委員：テーマと時期がよかったからということですね。

中島会長：生原稿というのは、また特別な意味があるんですよ。読みづらいんですが、それはそれでまた賢治さんに触れることができるんだろうなと思います。関連しますが、補修というのも順調といえるかどうかわからないけれども、少しづつやっているとということなんですよね。

宮澤主査：そうですね。修復して皆様に見ていただけるような状態になったものを展示しているというような形にしておりますので、順調にいつているかと思っております。

高橋委員：この先も生原稿の展示というのは、まだまだ余裕があると言いますか、まだいっぱいあるんでしょうか。

宮澤主査：はい。毎年、定期的に計画を立てまして修復をしておりますので、修復が終わったものを随時、特別展にあわせて展示をしていこうと考えております。平成28年から修復が始まったんですけども、大体20年くらいかけて、原稿自体は3千4百枚ほどありますので、順次修復を行いながら展示をしていくということを行っていかねばと考えております。

中島会長：貸してくれとかという要請はないんですか。

宮澤主査：ありますね。今のところ、外に出すということをしていないのですが、データとしては精密複製というようなものを作ることができるようになってますので、データをプリントアウトしてそれを提供するというようなことはしております。

中島会長：ほかにございますでしょうか。なければ、令和元年度事業報告については、ご承認いただくということでもよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

中島会長：はい、ありがとうございます。次に令和2年度事業計画について、ご説明をお願いしたいと思います。

晴山副館長：はい。それでは、令和2年度事業計画についてでございます。資料は5ページになります。1主要事業、(1)特別展の開催。①童話貝の火、期間が令和2年6月1日から7月12日まででございます。当初、令和元年11月2日から令和2年5月10日まで開催予定でしたが、新型コロナウイルスの関係で臨時休館をはさんだため、令和元年11月2日から令和2年3月1日までと上記期間に開催日程を変更してございます。②童話四又の百合、期間が令和2年7月15日から9月13

日でございます。③宮沢賢治と棟方志功、期間が令和2年9月19日から令和3年1月31日まででございます。④童話なめとこ山の熊、期間が令和3年2月6日から5月9日までということでございます。(2)「賢治の世界」セミナー、市内小中学生及び高校生、一般を対象に宮沢賢治作品や精神をわかりやすく紹介する出前講座を開催いたします。実施予定は別紙3、資料は一番最後になりますが、ご覧いただきたいと思っております。別紙3、令和2年度「賢治の世界」セミナー、出前講座ということで、例年ですと1学期から開催するんですけども、コロナの関係で2学期からということで、例年と変わってございます。これからの状況によっては変わるとか、中止になるとかということがあるかもしれませんが、とりあえず現在のところはこのようになってございます。資料は5ページに戻っていただきたいと思っております。(3)「賢治の世界」ワークショップ、賢治世界を体験するゆかりの地探訪等のワークショップを開催。(4)ギャラリートーク、11月以降に月1回程度で学芸員によるギャラリートークを開催したいと思っております。2各種行事等、開館記念行事、令和2年9月21日、開館日にあわせて開催予定でございますが、内容につきましては、検討中ということでございます。3記念館年報、記念館通信等の発行。記念館の年報は、令和元年度の年報になります。記念館通信、9月と3月ころに発行したいと考えております。4環境の整備、(1)主な施設整備。正面通路土留柵修繕、記念館に入る正面の入口北側に、いろいろツツジとかを植栽しているんですけど、その土留めの板とかがちょっとボロボロになってきましたので、そこを改修したいと考えております。さわやかトイレの屋根の塗装ということで、屋根の色がちょっと薄くなってきましたので、塗装したいと思っております。ポランの広場アケビ柵修繕、南斜花壇の一番上にアケビ柵があるんですけども、木材をボルトで留めているんですけど、木が腐ってボロボロになってきましたので、改修したいと考えております。あとは、各所タイル、コンクリートの壊れたところとか、木の橋の塗装とかを考えております。(2)周辺環境の維持管理。市道宮沢賢治記念館線及び南斜花壇周辺の草刈り、植栽管理をしたいと思っております。賢治ゆかりのバラの花壇整備も行います。以上です。

中島会長：はい、ありがとうございます。それでは、ただ今説明のありました令和2年度事業計画について、皆様から忌憚のないご意見をいただきたいというふうに思います。年度は大分過ぎていますが、来年度にもつながるようなお話でも結構でございますので、よろしく願い申し上げたいと思っております。

小原委員：出前講座のときは、私たちとか父兄とかも行けるものですか。

宮澤主査：学校にご連絡をしていただきたいと思っております。

晴山副館長：学校から地域の人もということで、案内になっていると思っております。学校に話をしていただいた方が間違いがないと思っております。

中島会長：学校で積極的に地区の人に出していますか。あまり聞いたことがないが。

宮澤主査：学校によってだと思います。小学校の通信とかにセミナーやりますとか、父兄に向けてのお便りだとかそういったものにも書いているところもありますけれど、まったくお知らせのないところももちろんございます。

堀合委員：年間行事予定みたいなものをPTA総会とかで渡して、日にちの変更をすることはあってもこれはもう年度当初には決まっていますので、ご父兄さんとかわかっているのではないかなと思います。

清水館長：今回は、1学期はコロナの関係で実施できなかったもので、当初の学校行事予定表には載っていない、変更になっていると思っております。

中島会長：棟方志功が私は好きなんですけど、本物の作品が見られるんですか。

宮澤主査：宮沢賢治記念館が造られた当時なのですが、雨ニモマケズの版画を棟方志功さんからいただきまして、これを当館で所蔵しておりますので、これを含めて展示したいと考えております。あとはデータではあるんですけども、賢治作品に関するものを棟方志功記念館さんからお借りすることができましたので、そういったものもあわせて公開することができたらなと考えております。

瀬川委員：この特別展の日程というのは、コロナの影響によってはズレていくこともあるということなんでしょうか。

清水館長：去年のうちに計画した日程から、今回のコロナの関係で大分変更まして、また今後のコロナの状況によっては、もしかしたら変わる可能性がないとは言いきれません。

高橋委員：賢治の世界セミナーという出前講座は、各学校によってテーマが違いますが、この内容はどういう基準とか、何か決まりごとがあるんですか。

清水館長：学校からこういうテーマでという希望をお聞きして、私どもはそのテーマにあった講師さんをお願いするというような形でやっております。

中島会長：県内の同種の施設でも、やっぱり同じようにコロナの関係で休館したり制限したりというようなことはありますか。例えば、北上の詩歌文学館とか。横の連絡というのがありますか。

清水館長：他館からこういう状況ですという通知等とか、いつから何々展を開催しますというようなご案内は来ていますが、それを取りまとめて状況を把握しているかと言ったら、それはやっておりません。

中島会長：事業計画については、よろしいでしょうか。それでは、令和2年度事業計画は原案のとおり承認することよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

中島会長：はい、ありがとうございます。議案は以上の2件でございました。ありがとうございます。冒頭でお話ししましたように、せっかくの機会でございますから、皆さんから宮沢賢治記念館に関わること、あるいは賢治さんにかかわることを含めて、ご発言をいただきたいと思っております。それでは、順番にお願いしたいと思いますので、花巻市民の会の瀬川さんから、どうぞお願いします。

瀬川委員：私がここに座っているのは、市民の会の方から、お前また行って来いと言われたからなんです。賢治市民の会は、月に1回例会をもって、いろいろなことを話し合ったり、花巻ならではの研究を進めているわけなんですけれども、7月の第3水曜日に例会があったときに、今回の審議会に向けて意見的なことはないですかと聞いたところ、2、3出ましたので、それを伝えてみたいと思っております。一つは、新型コロナウイルスがこういう状況にあるわけなんですけど、折角だからといういい方も変なんですけれども、特別企画として、賢治とパンデミックみたいなテーマでできるんじゃないかという意見が出ました。賢治さんの妹のトシさんも病気で亡くなっていますので、結核とかそういったものが蔓延した社会情勢とかを関連付けて企画できないものだろうかというような意見が出ました。それと、賢治記念館の蔵書のリストとイーハトーブ館の蔵書のリストを検索できるようなシステムがあればいいなということでした。花巻図書館等々に行って本を検索すると、ここには何冊あってとか、ここにはないけれどもどこそこの図書館にはあるみたいなものが出てくるんですけども、そういったものに紐付けることができるのかどうかということです。インターネットも使えればなおいいなという話も出たんですけども、いずれ蔵書リストというものがわかるようにしてもらえればいいなという意見が出ました。それから、南斜花壇なんですけれども、草刈りを年2回やっていたり、きれ

いな花が咲いていたり、整備はされているんです。南斜花壇というのは、賢治記念館とイーハトーブ館をつなぐ一つの空間だと思うので、これをもうちょっとうまく行き来できるような使い方ができればいいんじゃないかという話が出まして、今は花がきれいには咲いているんですけども、もうちょっとゆっくりと回りながら、展示物であったりとか何かそういったちょっと休める椅子を増やしたりだとか、年配の人が一気に上がるのは厳しかったりするんですけども、そういう人でも休みながら、そういう展示物を見ながら降りて行ったり登って来たりして、二つの館をつなげるような場所になればいいんじゃないかという意見が出ました。この運営審議会というのは、イーハトーブ館にもありますが、果たしてここでの審議というのはどこまで反映されているのかよくわからない部分があるなという話も出たと、大体こんなところです。

中島会長：はい、ありがとうございます。今、課題等も含めて将来的な部分もありましたが、事務局から答えられる範囲でお願いします。例えば今後の企画展とか、震災のときは、賢治さんと震災の関連でいろんなものがあつたんですが、今回もいろんな疫病との関係というようなことなどもつながりがあると思うんですが。あとは蔵書、南斜花壇などの件に関して、答えられる範囲で事務局、お願いします。

宮澤主査：パンデミックの企画展についてですが、賢治は実際、病気との関連がありますので、できないことはないと思うんですけど、ただ震災と違って、今このタイミングで取り上げてそれでお客さんをよんでというのが、果たしてそれが正解なのかどうかというところは、やはりもう少し時間を要さなければならぬのかなという思いもありますので、少し慎重にならざるを得ないのかなという思いでおります。それから、蔵書に関してなんですけれども、賢治記念館はほとんど蔵書を持っておりません。というのも、イーハトーブ館ができたときに、ほとんどイーハトーブ館の図書リストに加えるという形をとっていますので、賢治記念館の図書室というのは今、ほとんど冊数がないという状態、全部イーハトーブ館の方にきてるという状態です。検索リストというのは、イーハトーブ館のものと賢治記念館で一応共有はできるようになっているので、それをこの後どのように活用するかというのが、今度の新しい図書館とか、そういったところとの話し合いになってくるかと思っておりますので、データ自体を活用するという事は、そんなに難しいことではないかなと思っております。

瀬川委員：ということは、データは整理されているわけですね。

宮澤主査：もちろん、賢治学会がありますので、学会で整理して、イーハトーブ館の蔵書ということでやっております。図書ナンバーとかは賢治記念館とすべて統一されています。

瀬川委員：その検索というのは、今は個々でしかできないんですね。

宮澤主査：そうです。イーハトーブ館と賢治記念館でも一応見ることができます。インターネットでも見ればいいなということかと思うんですけど、そこまではまだ至っていないという現状です。

清水館長：南斜花壇の使い方というお話がございました。瀬川委員がおっしゃるとおり、イーハトーブ館と宮沢賢治記念館をつなぐのが南斜花壇、ポランの広場ということになるんですけども、ベンチは今もいくらかあるんですけど、増設ということについては、増やせるところがあるかどうか内部で検討させていただきたいと思っております。南斜花壇のところは、勾配が急なので、あそこにはベンチは置けないと思っております。日時計花壇のあたりしか平らなところはないんじゃないでしょうか。

瀬川委員：私もいつだったか、一気に登って降りたら、三日ぐらい経ってからすご

い筋肉痛になったことがあったんです。年配の人にはかなりきついんだらうなと思いますし、休み休みしながらでも、もうちょっと行き来できるようになるにはどうしたらいいのかなという思いです。

清水館長：あとは、審議会でもいただいたご意見等がちゃんと館の運営につながっているのかというご指摘でございましたけれども、我々も重要なご意見をいただいたら、それを反映できるように努力してまいりたいと思っております。

中島会長：それでは、新任でございますが、早池峰賢治の会の高橋さんからお願いします。

高橋委員：初めてのことなので、ちょっととんちんかんな話になるかもしれませんが。資料を見て、いろんな計画がでていますが、私は以前の会に出ていないのでわからないんですが、来館者の意見とかいろんな意見とかお願いとかがあると思うんです。全部の意見に応えることはできないと思うんですが、こういう意見がありましたよとかということをこういうふうに挙げて、来る人の考えも反映するということも載せればどうなのかなと思うんですが。

清水館長：コロナ以前は館内にご意見ノートと言いますか、自由に記載していただけるノートを配置していたんですが、コロナ以後は感染を防止するために撤去しております。そのため、直接ご意見を頂戴する一つの手段はなくなりましたが、来館者から直接お話を聞かせていただいたり、メールという手段もありますので、委員の皆様とも共通理解した方がよいようなご意見がありましたら、審議会の中で皆様にお知らせしたいと思っております。

中島会長：委員の皆さんには、記念館通信という冊子が配布されていると思っておりますが、この中にも来館者の声という形で出ていますから、それ以外にも特徴的なものがあったらお知らせくださるようお願いしたいと思います。それでは次に、東和の会の小原さんをお願いします。

小原委員：私たちの歴史はまだ6年ぐらいで浅いので、宮沢賢治記念館に対する意見とか何かというものをあまり話し合ったことはないんです。今年とはとにかくコロナでしたので、3月か4月にする総会もできなくて、役員会だけになりました。6月に東山町を訪れる、交流をするというふうに昨年度から決まっていたんですが、二転三転してどうしようかと思ったんですけれども、会員は70歳前後ですので。でも、レンタカーを借りて、会員の中で比較的若い60歳台の人に運転してもらって、13名で行ってまいりました。賢治さんにはあちこちにファンがいたり、その土地の誰かがつないでそこに碑を建てて、その碑を訪ねて行ってまいりましたけれども。農民芸術概論の中に入っている「まずもろともにかがやく宇宙の」という碑のところで写真を撮りました。それを建てたのも、やっぱり地元の賢治を愛する人の努力があってこういうものが建ったんだという説明を聞いて帰ってまいりました。例年、8月9月はお休みなので、年間10回の例会なんですけれども、7月が最後で10月まで会えないということで、図書館はまだ視聴覚室が開いていないものですから、新しくできたコミュニティセンターの会議室を借りて14名ぐらいでやったんです。そのときに呼んだ人が地伏亭金目（ちふくていきんめ）さん、自称講師、しかも賢治を愛する講師で、鹿踊りのはじまりを15分くらい講談でやっていただきました。子供たちに賢治の作品を講談で聞かせるのもすごくいいなと思いました。賢治記念館でやっている出前講座、これはとてもいいですよ。私たちのように関係しているものが連絡した時に、どうぞ歓迎してくださいと賢治記念館の方から言っていただければ、ありがたいと思います。以上です。

中島会長：ありがとうございます。それでは、ユネスコ協会の堀合さん、お願いします。

す。

堀合委員：はい、花巻ユネスコ協会事務局長の堀合と申します。ユネスコ協会は、いろいろな活動をしておりますが、基本となるものは花巻のユネスコということで、賢治さん精神と言いますか、「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」というような賢治さんの精神を受け継ぎながら活動してまいりたいと思っていますところ。先ほど、いろいろな活動をしていると言いましたが、例えば高校に年1回、いろいろな著名な方をお呼びして国際理解講演会というのを毎年やっております、今年も花巻農業高校さんの予定ですがけれども、去年は青雲高校さんとか、その前は南高校さんとか東高校さんとかでやっております。そういったような国際的なこととか、8月15日には平和の鐘を市内のお寺で、今年も3か所、コロナの関係で辞退されたお寺さんもあるんですけど、今年もやるようにしております。それから、市内小中学校30校の協力を得て、書き損じハガキの協力をさせていただきまして、世界寺子屋運動の学校を建てるというふうなところに、書き損じハガキを切手に代えて、郵便局でやってくれますので、今年も額面にして10万円以上のお金を日本ユネスコ協会に送りまして、そこから世界のいろいろな支援が必要な、東南アジアが主なんですけれども、そういうところに学校を建てるというふうな、あるいは文房具を渡すというふうな活動もしております。それから、ユネスコティータイムというものを年間5回開催しております。これは、読書会です。2冊の本を平均して2か月ちょっとの間に1回ということですが、2冊のうちの1冊は必ず賢治作品というふうにしてしております。イベントカレンダーにも日にち等を載せていただいておりますので、この前も会員以外の方から問い合わせがありました。コロナ騒動で5月と7月は開催しておりません。今度9月に開催するというふうにしてあります。あとは、会員同士が交流したり、市内の病院とかに賛助会員になっていただいたりして、活動の資金にしたり、バザーを開いて活動資金にしたりしております。私、四又の百合という作品を知らなかったものですから、先ほど賢治記念館に行ってきました。きちんとコロナ対応、本当に大変なことです。サーモカメラとか記名とか、喫茶室もイスを疎らにして対面しないようないろいろな工夫されている中で運営していただいて、本当にありがたいことだと思っています。私が入ったときは、結構いろんな方が入ってございまして、夏休みに入ったということもあるかもしれませんが、全国的に根強い人気があるんだと思っています。昨年この会議では、入館者数が減ってきたということがテーマになったりして、折角の施設をと思っていたんですが、花巻で10万人以上の人が入る施設はなかなかないんだよと部長さんがおっしゃっていましたが、今年の数字を見ましたら、入館者数が増えていて大変良かったなと思っています。地道に企画展等も開催して、そういうふうな成果が皆さんに根強く支持されているんだろうなと思いました。それから、私は東和温泉が好きで、東和温泉に行くんですけど、この前賢治記念館のチラシがありまして、東和温泉は高速道路の関係もありますんで、いろんなどころから、いろんな方言を使う方もいらしているところで、こういうふうなものを置いているのはすごくいいなと思っています、いろいろ企画展のことが載ってましたので、こういうこともいいことだなと思っています、私も1枚いただいてきたところ。それから、ちょっと先ほど見てきましたら、四又の百合の映像が結構皆さんに人気で、知らなかったストーリーだとか、知っているストーリーもそうなんですけれども、やっぱり映像を通してというのは今、わりと若い人もそうですし、私たち世代もわかりやすいということですが、挿絵が素晴らしいですよ。物語も素晴らしいんですけど、絵がすごくいいなと思っています、一緒に見ている人がすご

く面白かったと言って、出ていかれました。先ほど言いそびれてしまいましたが、施設設備の点なんですけれども、花巻市は高齢者とか障がい者に優しい施設を目指していて大変素晴らしいことだと思って、私もうれしく思っているところですが、ちょっと見ますと皆さん元気なんですけれども、中にはゆっくり歩いていらっしゃる方もいるようで、駐車場から記念館までの通路ですね、高齢者とか障がい者とかゆっくり歩く方もどこかに触るものがあれば、将来的に手すりとかの設置なども実現できるかどうか、すぐということではありませんが、検討してみてもいいかなと感じていました。

中島会長：はい、ありがとうございます。最後はご要望もいただきましたが、将来の課題として検討していただきたいと思います。

清水館長：駐車場から記念館までの通路は、タイル貼りになっておりまして、車イスには優しくない構造になっています。ただ、普通のアスファルト舗装にしてしまうと味気なくなってしまうということもあります。様々なお考えがあると思いますけれども、将来的に構造面で技術的な進歩があれば、いいものが出てくれば積極的に考えていきたいと思っています。ありがとうございます。

中島会長：では、多田さん、お願いします。

多田委員：最後になりましたが、地元代表みたいな感じで参加させていただいております。特に賢治の会には所属しておりませんが、今までの話を聞いてちょっと感じたことなどをお話してよろしいですかね。先ほど宮澤さんの方からリニューアルして6年目というお話だったんですが、何かその件に関してのお声とかがありましたら、聞かせていただけたらなという思いがあるんですけれども。それから、解説案内、レファレンスの対応というのがありました。団体の入館者を中心に観光ボランティアさんが対応しているというご説明だったんですけれども、これは予約でやっているものか、常駐の形で対応されているのか、あるいは何人ぐらいのボランティアさんがいて足りているかどうかとかいうのも気になったところでした。それから、特別展での直筆稿の展示というのは、すごく素晴らしいなと思います。それで、重みが増すような企画だなと思います。PRするとき、直筆稿というのをちょっと強く出してもいいのかなという感じは受けています。賢治の世界セミナーというのもすごい素晴らしいなと思っております。これは学校との連携が必要かなと思うんですけれども、ぜひ継続していただければなと思います。講師の方々を全部は存じ上げておりませんが、素晴らしい方がいっぱいいて、さらにこれに続いていく方が出てくれればもっといいかなという気はしております。あとは、企画展の四又の百合、まさに百合の花が咲く時期に開催するというので、時宜を得た企画だなと思います。一頃に比べますと、沿道の百合が昔よりちょっと増えているような感じがして、大事に管理して育てていただいているのかなという気がしております。それから、施設の整備なんですけれども、先ほど来いろいろ改修等のお話もいただいておりますけれども、賢治記念館本体で雨漏り等とかは多分ないとは思いますが、定期的な点検とかをされているかどうかわかりませんが、屋根の管理とかは大変大事だと思いますので、雨漏りしてからではちょっと遅いかなと思いますので、早めの対応、点検をしていただければなと思います。以上です。

中島会長：はい、ありがとうございます。今、ご要望やご意見やら、ご質問があったんですが、雨漏りは大丈夫だとは思いますが、何かこれに関してありますか。

清水館長：はい。施設の管理につきましては、花巻市公共施設マネジメント計画ということで、花巻市の公共施設全体を将来的にどのようにしていくかという計画であります。個別の施設の計画はまだできていないんですけれども、その中で賢治記念

館については、将来にわたって継続して維持管理していきますというふうにしています。予算面での話になりますが、これからも適正に維持管理していくための定期的な維持補修等については、きちんと点検等をしていながら、必要な予算を要求していくということなるものと思っています。

中島会長：ありがとうございました。私も地域代表という形でここに記載されていますが、花巻市芸術協会の代表をやっています、今はコロナ関係で、ほとんど発表、展示は中止です。早々と11月の分も中止しているものもあります。感じたのは、コロナの関係で横文字を含めいろんな言葉が飛び交っていますが、その中で「不要不急」ということで、芸術文化は「不要不急」の分類に入っているような感じがしますが、果たしてそうかなと、非常に大事な分野といいますか、健康、命に関わることが優先ですけれども、日々の活動というのもやっぱり大事なということも逆に思い知らされたという感じがします。1市3町で文芸大会を持ち回りでやっているんですが、今回は集まるのは中止しまして、応募だけやるとか、しょうがないという思いと、我々の日々のいろんな文化や人間の生きがいの部分がこのコロナで気づかされたら、我々は大事なことをやっているんだなという部分ですね、一日も早く検温や連絡先を書かないで自由に出入りできる日が早く来てもらいたいなということを感じています。皆さんから特になければ、これで議長の職務を終わって、事務局にお返ししたいと思います。

清水館長：はい、中島会長ありがとうございました。それでは続きまして、5のその他でございますが、事務局では何も用意してございませんが、皆様からその他がございましたら、ご発言をお願いいたします。よろしゅうございますか。それでは、以上をもちまして宮沢賢治記念館運営審議会を閉会させていただきます。皆様、大変ありがとうございました。